

チーム名	横井ゼミ3年A	大学名・学部	日本大学 経済学部	焼津ステージ
プラン名称	Yaizu Baton pass Project			
テーマ	「焼津温泉」を活かした持続可能な「観光まちづくり」			
リーダー名	若林海斗	メンバー名	穴谷菜摘、橋本慧哉、谷口慧悟、小森有紗	
指導教職員名	横井のり枝			

観光資源を最大限に生かし学習と絡めながら持続可能な観光へとつなげる

1. 提案プランにおける問題認識

【焼津市が抱える課題】

- ①観光資源を活かしきれていない
焼津＝漁港、水産加工業 というイメージが強い
- ②若者の転出者が多い
- ③焼津温泉が湧出量の半分しか使われていない

【焼津市の魅力】

焼津温泉、屋号、魚河岸シャツ、堀川など...
伝統や文化のある観光資源が豊富
⇒資源を活かしたフィールドワークで、
将来のU・Uターンの促進を目指す。

2. ターゲット

コロナ禍において実践的な学習が教育現場にて求められている＋Uターンを誘発するため静岡県出身者が多い関東圏と愛知県の学生
＝関東圏と愛知県在住のまちづくりに関心のある大学生

3. 問題の解決策



プランを支え、持続可能なまちづくりへとつなげていく仕組みを整える

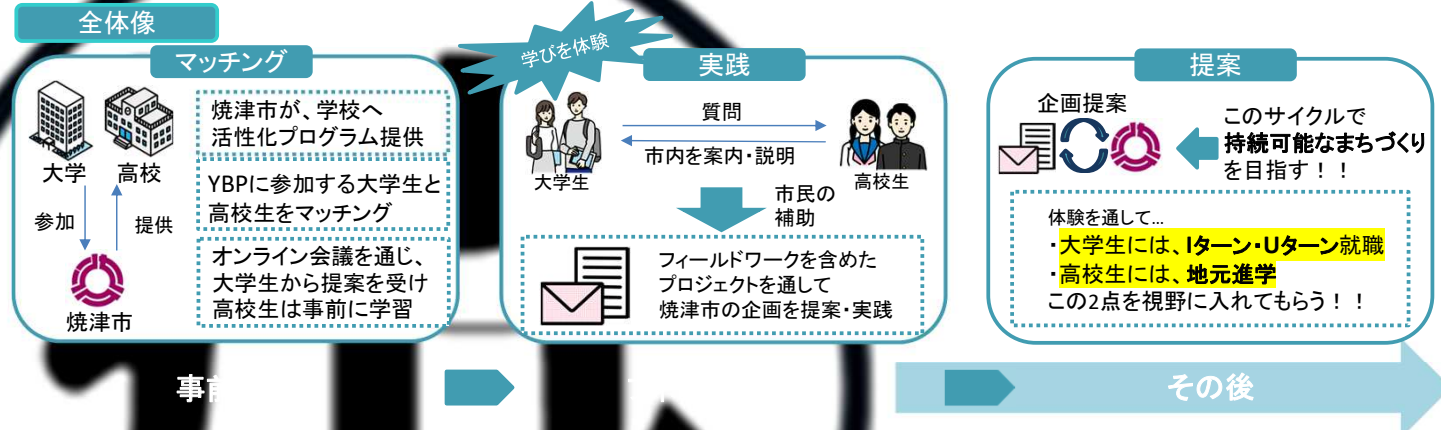
- ✓文化×テクノロジーで未来へとつなげる
- ✓魚河岸シャツの着用促進
- ✓廃棄されている温泉水を、新たな形で付加価値を見出す

新たな試みで話題性もある！

4. 提案プランの実現計画

Yaizu Baton pass Project

YBPとは、県外の大学生と県内の高校生が協力をし、市内の人がサポートしながら持続可能なまちづくりを実現するプロジェクト！



5. 提案プランの新規性

①県外の学生と県内の高校生がターゲット

まちづくりの中心をもっと遠くをターゲットとする。焼津市の未来を担う人材育成へ

②捨てられている温泉に着目

「湧出量の半分しか使われていない」という焼津温泉の課題を解決するため足湯船と飲料としての活用方法を提案
→捨てられていたものに価値を見出し観光へとつなげる

参加者によるプラン提出

参加者によるプランの提案で持続的に焼津市の発展へとつなげるメカニズムを作っている

6. 効果

U・Uターンの増加

焼津市の魅力を再認識、または新しく知ってもらうことで焼津市への興味を掻き立て、若者転出の抑制、呼び込み増加をもって持続可能性を図る。

将来的な文化の担い手

YBPを通して焼津の文化に興味を持った学生がのちの后继者となり、文化が継承されていく可能性を図る。

焼津温泉の有効利用

廃棄温泉水を足湯船と飲料という新しい形で活用し、焼津温泉の持続可能も目指す。